

学校だより

2月号



三中HP

アクセス
QRコード

それゆけ三中

令和5年 2月1日

足利市立第三中学校

生徒数：212名

発行者：高木秀和



教育目標：より確かに・より豊かに・より逞しく



朝の教室、黑板に書かれたメッセージは登校して来る子らを包みます。担任の語る自身の体験したエピソードは、からっ風に冷やされた身体にほんわりとした温かみを灯します。また、担任から励ましのエールを受けて、「今日も頑張ろう」と一日の始まりをスタートさせる子もいます。最近のものを紹介すると、○「同じ事をやっても、昨日と今日では感じ方が変わることがあります」○「昨日は学校が終わってから○○先生とラーメンを食べに・・・」○「年末は、断捨離で荷物の整理を・・・」○「努力は目標から、技術はマネすることから、知識は学習から、自信は姿勢から、色々チャレンジして納得いくようにしていこう」など、ふと心にとまる言葉がありました。朝の陽射しがゆっくりと大地を温めるように、言葉も教室を生徒を柔らかなベールで覆います。

1月25日(水)部活動休みで下校中の2年生、さん、さん、さん、さん、さん、さん、1年生さんの7人が、山川町の交差点付近で自転車通行していた女性の転倒を目撃して、その場に駆けつけました。女性の脚は震え痙攣していて、頭部は冷たい地面についていました。柿沼さんが頭を冷やさないように頭部を抱え介抱し、その間に周囲の人が救急車を呼び、女性は無事に救護されたのです。とっさの判断で、動けることは立派です。迷う前に、身体が動いていた、これが7人の言葉です。人命救助という立派な行動を大変誇らしく、嬉しく思います。



2年生 スキー宿泊学習 1/12(木)~14(土) 志賀高原



スローガン「愛せ 友と自然を 踏み出せ 大人への第一歩を ～スキー大好き～」のもと、2泊3日の行程を無事に終えることができました。澄み渡る青空の下、インストラクターさんの指導を熱心に受け3日間で、スキーの初歩を体得しリフトに乗ってボーゲンでの滑走を楽しみました。そして、スキー以外にも、色々な気づきや体験もできたようです。1日目の夜はグレンデの雪上レク、2日目の夜には立志式を行いました。代表の生徒が作文を発表し、立志の志を披露しました。生徒の感想を抜粋で紹介します。

【生徒の感想より】

★はじめは少し怖かったけど、インストラクターさんや仲間に教えてもらって2、3日目にはリフトに乗れるようになり嬉しかった。★不安で大変な思いもしたけど、仲間が支えてくれたから最後までスキーの楽しさを感じられた。★スキーの講習班ではあまり話したことの無い人達とも話せたし、部屋のみんなで協力して2泊3日を過ごせたのが楽しかった。★立志式では親の気持ちがとても強く伝わってきた。★立志式では立志作文の発表を聞いたり、親への手紙を書いたりして、14歳になることへの自覚をもてた。

また、スキー教室の振り返り用紙には、この行事とおして見つけた友達のよりどころを書くところがあり、友達の名

前とそのよかった行動が、どの生徒のプリントにもぎっしり書き込まれていました。互いを認め合い、一歩一歩前に進んでいく様子を実感しました。



かなふり松チャレンジ 1/11(水)

「かなふり松チャレンジ」という学力テストが、1、2年生対象に実施されました。これは、足利市の児童生徒全ての学力向上をねらいとしています。ですから、テスト結果から自分の学習の到達度等を確認し、さらに、テスト終了後に提供される補強教材を活用して、復習をしたり、理解が十分でない分野を再度学習して次年度の進級に備えることが大切です。

第三中学校第10回卒業生同窓生一同様より寄付金授受

第10回卒業生の皆さんより、本校の教育支援ということで寄付金をいただきました。同窓生一同様の後輩への思いを教育活動に生かしていきたいと思ひます。先輩方の思いを託す物として、合唱コンクールの金賞の盾、体育祭の優勝杯、毎日の生活に欠かせない教室の壁時計を、寄付金で購入させていただきます。どうもありがとうございました。



1年生 国際理解教育講座 1/13(金)

足利市国際交流協会の■■■■さんと■■■■さんを講師に



国際理解に関するお話をさせていただきました。1年生の生徒皆さんの感想を紹介します。

【感想】○足利市がスプリングフィールド市と姉妹都市なのは、リンダ・ギアーというALTが市長に足利市を紹介してくれたおかげだということを知った。○中国の学校のことや、麻婆豆腐は家庭での料理でレストランではないということに驚きました。○海外の人が文化の違いで困っていたら、相手の国の文化を聞き、日本の文化を教えたいと思いました。○多文

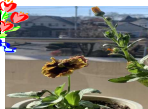
化共生社会についてのところで、私たち中学生ができることで、「日本人の思いやり」の話が心に残りました。

今回の学びは、様々な場面において皆さんの考え方、ものの捉え方をプラスにしましょう。



込められた感謝の気持ち

特別支援学級では、学校の花壇で丹精込めて育てたパンジーを職員室、事務室、校長室などに飾ってくれました。からっ風の吹き抜ける空を見上げ、凜と広がる黄色と紫の花びらは、この花を育てた皆さんの温かい心配りと寒いけど頑張



れというエールを贈ってくれています。また、調理学習で焼き上げたアップルパイを個包装で包み先生方に配ってくれました。ありがとうございました。

TV番組に出演

TV 東京の卓球塾という番組に、猿田町の徳蔵寺（ピンポン寺）が取材を受け、卓球の練習をしていた1年の■■■■さん、■■■■さん、■■■■さんがインタビューを受けました。3人はの水谷選手から直筆のサインをいただきました。（令和5年1月22日放映）



諦める一歩先には、必ず宝がある

「キャベツの千切り」をきっかけに料理人の道へ 【黒岩 功さんの話】 (2月 学校集会より)

●大阪市に、お箸で食べられるフランス料理のレストランとして、「ルクロ」というお店があります。「ルクロ」を開業黒岩功さんは、喘息で学校を休むことが多く、勉強も遅れがちでした。無口で、おとなしい性格で、小学校では、いじめにもあっていました。家では共働きの両親に代わって、自分と弟の食事を作っていました。そんな黒岩さんが一つの決心をしたのは小学4年生の授業参観日でした。家庭科の授業で、料理に慣れていた黒岩さんは、周りが驚くほどキャベツをうまく切りました。そして、参観していた母親が涙を流すのを見て、「自分はいつか料理人になって、親孝行しよう」と決心したのです。「キャベツの千切り」、これが黒岩さんが料理人への道を志すきっかけでした。●黒岩さんは18才の時、大阪のお店で料理人の修行を始めました。先輩に怒られる日々でしたが、小学校のように理由もなくいじめられることはなかったので、何度怒られても笑顔で「ありがとうございます」と前向きに頑張り、先輩からも可愛がられるようになりました。その後、スイスへ単身で渡り、しばらく働いた後、今度はミシュランの星がつく店で働きたいと願い、フランスのパリへと拠点を移しました。●パリに渡った黒岩さんは、断られ続けてもめげずに100軒ほどのお店を回り、最後には言葉の壁も乗り越え、憧れのミシュラン2つ星の店で働けるようになりました。黒岩さんは、誰よりも朝早くに店に出て、夜中まで働きました。●その後、黒岩さんは、オーナーの紹介で3つ星レストランで働けることになりました。ただし、2つ星、3つ星、どちらの店でも休みも給料もない条件だったため、働かせてもらったのでした。生活費は、土日に日本料理店でアルバイトしてつくりました。●フランスに渡って3年目、ついにお金もなくなり、大阪に帰って来ました。そして、日本で知り合った奥さんと、2002年、心斎橋で、フランス料理の小さなレストランである「ルクロ」を開店します。●ルクロは路地裏の小さな店でした。資金も十分になく、食器も100円ショップの物で、お客さんは1日に1～2人で、全く来ない日もありました。生活のため、奥さんと共に、大学の学生食堂でも働きました。それでも、なんとか黒岩さんが踏ん張り続けることができたのは、子どものミルク代を稼がなくてはならないという責任感と、文句一つ言わずに一緒にやってくれる奥さんへの感謝があったからでした。そうして、コソコソとレストランを続けているうちに、やがてルクロは、「掘りこたつで靴を脱いで、気軽に箸で食べられるフレンチレストラン」として評判も広がっていききました。そして、2号店、3号店、4号店と店舗がオープンしていききました。●2012年には、黒岩さんが修行していたフランスのパリへも出店しました。パリ出店では、工事が進まず、まだ開店もできていないのに高い家賃だけを払い続けることになり、一時は、撤退も考えなければいけない状況に陥りましたが、「今までお世話になった方への感謝のためにも」どうにか乗り切りました。その結果、パリのお店も、現在では行列のできるほどの人気です。●今では、黒岩さんのルクロは、外食グループの「ルクログループ」と呼ばれるまでに成長しています。そんな黒岩さんを支え続けたのは、大阪の修行時代に先輩が、「これ難しい本だけど、おまえにやるわ」と銭にくれた、ナポレオン・ヒルの著書『成功哲学』の次の名言でした。諦める一歩先には、必ず宝がある

黒岩さんは、はじめてこの言葉と会ったときは「おもしろいな」と思う程度でしたが、その後、この言葉に支えられます。黒岩さんは、パリの就職で100回も断られ続けて心が折れそうになったとき、先輩からもらった『成功哲学』を読み直して奮起しました。そしてその後も、困難が訪れるたびに、この言葉を支えにしてきました。心斎橋の出店でお客が来なかった時、パリにお店を出すときのトラブルなど、黒岩さんはくじけてしまいそうな時期を多く迎えています。しかし、いつも諦めなかったからこそ、言葉通り宝物を手に入れることができ、今のルクロの成功を納められたわけです。苦しいとき、思い通りにならないとき、退くことも一つの選択肢です。ただ、その先へ踏み張った人が見ることのできる光景、そして得るものは、とても大きいと思います。諦める、諦めない、どちらもあり得る選択肢です。皆さんの生活の中で、選ぶ場面がきたなら、自分の身体と心に従って進んでください。

ひ あお 陽を仰ぐ ベンチの 小石 露に濡れ 落ち葉の 友と 暖を求めつ

